

---

・ ・ ・ リリなのの世界に転生？リリなのってなに？

アーク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

・・・リリなのの世界に転生？リリなのってなに？

### 【Nコード】

N5807X

### 【作者名】

アーク

### 【あらすじ】

神様のミスで死んでしまった主人公は魔法がある世界に転生させてもらった・・・。

S t sに突入！！

つというテンプレですが超亀更新＋文才無い作者が執筆するなのは×ドラクエお楽しみください！

ってか原作知識ないという設定がどうか吹っ飛んでいった気がする

んだよね

ぶろろーぐ（前書き）

初投稿です

ぶろろーぐ

??? side

・・・目の前に土下座している男の人がいます。

男の人「本当に申し訳ないです。」

・・・いやだからなにがどうしたんですか？そしてここどこですか？

男の人「ここは転生の間で、俺は転生を司る神なんだけど俺のミスで書類が燃えちゃって・・・、でその燃えた書類にかかれてた人が死んでしまい、その死んでしまった人があなたなんです。」

へえー神様・・・って私の書類が燃えたってことは・・・？

・・・てことは私死んだの？

神「はい・・・、でお詫びにあなたを転生させたいんですが、いかがですか？」

転生か・・・元の世界に転生できるのかな？

・・・うーん、前世に未練ないし・・・まあ転生しますよ。っ

いでにミスは誰でもあることですし許します。というか元の世界に転生はできるんですか？

神「元の世界には無理ですが、元の世界にあった、ゲーム、アニメなどの世界には転生ができます。」

- - ーじゃあランダムでいいので魔法のある世界に転生させてください。魔法を使ってみたかったんですね。

神「あ、お願いを何個かなえられますがどうします？」

- - お願いかぁ・・・、ならドラゴンクエストの呪文と特技を拾得できるようにしてください。

というか私魔法って言ってもドラゴンクエストのしかないんだけどねぇ・・・

神「はい、分かりました・・・できましたよ。あ、それと前世と同じ性別の女になりますから。」

女なら前世も同じだし多分戸惑うことはないよね？

- - はい

神「じゃあ、逝ってらっしゃい。」

- え？なんか字が違わくないですか？

パカッ！

なんか浮遊感が・・・

- きゃあああああああ・・・！

神「さて転生した世界は・・・リリカルなのはの世界か・・・って  
あそこってデバイスないと魔法使うの難しいよね・・・？あの子が  
5歳になったら手紙と一緒にデバイスを送りますか。」

神「他の転生者はもっと欲張りなことっていたけど、あの子は欲  
がなかったし、高性能なデバイスをつくれますか！」

## 主人公設定

主人公

名前：ファイア・クローディア

性別：女

年齢：19歳（Strikers時）

身長：157cm

体重：よ「いつペン死ぬ？」ゴメンナサイモウシマセン

容姿：金髪碧眼、腰くらいある長さの髪をポニーテールにしてまとめている

魔力量：SSS（リミッターつけているのでいつもはS）

魔力光：青色

使用術式：スクウェア式 形状ロッド、ソード、

使用デバイス：ヘレーナ（愛称レナ）スクウェア式専用インテリジェントデバイス、魔法陣は円の中に三角形がある魔法陣

膨大な演算が必要な魔法（最上級呪文など）があるのでスパコン並みに演算能力がある。

使用魔法：攻撃呪文    メラ    メラミ    メラゾーマ    メラガイアー  
(フルドライブ時)

イド(フルドライブ時)    ギラ    ベギラマ    ベギラゴン    ギラグレ

ランデ(フルドライブ時)    イオ    イオラ    イオナズン    イオグ

デドス(フルドライブ時)    ヒヤド    ヒヤダルコ    マヒヤド    マヒヤ

チヨ(フルドライブ時)    バギ    バギマ    バギクロス    バギムー

デイン(フルドライブ時)    デイン    ライデイン    ギガデイン    ジゴ

ドン(フルドライブ時)    ドルマ    ドルクマ    ドルモア    ドルマ

回復呪文    ホイミ    ベホイミ    ベホイム    ベホマラー  
リホイミ(持続的に体力回復)

補助呪文    スカラ    スクルト    ピオラ    ピリオム    バイ  
キルト    バイシオン

+メダパニ)    ラリホー    マジックバリア    トリック(マヌーサ  
ラリホーマ    マホトーン

そのほか    ルーラ    リメミト

特技    火炎斬り(メラ)    氷結斬り(ヒヤド)    真空斬  
り(バギ・ドルマ)

稲妻斬り(ギラ・デイン)    ホーリーエッジ(イ  
オ・デイン)

ダークスパイク（ドルマ） 烈破斬り（イオ）

以上7つは各対応する属性呪文を宿してきりつける

ギガスラッシュ 決戦用剣技？

ジゴスパーク 火炎竜 トルネード 津波（発動

条件：水上のみ）

性格：礼儀正しい女の子、基本的に目上＆年上＆初対面の人には敬語  
背が小さいことを少し気にしている

前世では英語がダメダメだったためレナとはじめての会話の  
時にテンパった経歴あり

特技と特技の使用属性はDQM J2を参考にしてます

## 主人公設定（後書き）

というわけで設定を投稿。

ファイ「決断早かったね。」

まあねー感想がこなかったし自分で決めちゃった

ファイ「というかまだ本編始まってないのにレナの情報載せちゃっていいの？」

いんでね？転生後ちよろつとやったら5歳までキンクリするし

ファイ「まあいいけど・・・あんまり亀だと・・・分かるよね？」

善処しますからその膨大な魔力をこっち向けないでくださいお願いします

ファイちゃんメてー？

ファイ「はいはい・・・。こんなダメ作者でも温かい目で見守ってください。後感想書いてあげると作者が大喜びします。」

「話 さてさてこの世界に転生したんだろう？」

ファイア side

・・・うう・・・神様のほかあ・・・

「???」でかしたぞ、ディアナ!!」

うるさいなあ・・・

目を開けてみるとおっさんのドアップの顔が

ファイ「おぎやあああああああ!」(きやああああああ!)

おぎやあああって赤ん坊からですか・・・これは授乳とかおしめ変えてもらうつていう羞恥プレイフラグがノノノ

ディ「あなたにファイアが驚いてますよ？」

「???」まあいいだろ、ディアナ。それよりファイアはこの子の名前かい？」

デイ「ええ、この子の名前はフィア、フィア・クローディアよ。」

私の今世の名前はフィア・クローディアか。それよりもこの世界はどんな世界なんだろう？

神様にドラクエの魔法が使えるようにしてくれとは言ったからドラクエの魔法は使えるだろうけど、この世界の魔法もつかいたいなあ

・・・ピピッ

ん？何の音だろう？

???「ちっ、事件か。もう少しわが娘と接していききたいのに・・・」

デイ「がんばってくださいね。レイン・クローディア執務官。」

レイ「ああ、いつてくる。」

お父さんが仕事に行つたみたいです。・・・そういえばおなかすきました・・・

ディ「フィア、おなかすいたでしょう？」飯ですよ。」

さすがお母さんいいタイミング・・・ってなんで服をはだけさせて・・・って授乳ですかそうですか／／／

ディ「いっぱいたべて早く大きくなってね。」

・・・あうゝ恥ずかしい・・・／／／

おなかいっぱいになったら眠くなってきた・・・まあ私赤ん坊だからしかたないか・・・

ディ「あらあらおねむなのねえ。おやすみなさいフィア。」

おやすみなさい、お母さんzzzz

「話 さてさてどの世界に転生したんだろう? (後書き)」

フィ「亀＋文才なしの作者ががんばっているようです。」

フィアひどいよ・・・

フィ「そんなこといつてる暇があったらさっさと書く! まだ1000文字も突破すらしてないんだからね!」

ど、努力します。ともかく長文になるように努力していきます。

次回は時間を5年ぐらい吹っ飛ばします。

幼児期って正直何書けばいいか分からないですハイ。

じゃあじk「次回もよろしくね!」台詞取られた!

## 二話 デバイス登場（前書き）

1000文字突破！・・・ほんのちょっとだけだけどw

## 二話 デバイス登場

フイア s i d e

さて転生して5年が経ちました。理由は作者が幼児期に何かけばい  
いかららん！とかほざいたせいですが

- - ころ！メタなこというなw

・ ・ ・ はい。

- - しぶしぶだなおい ・ ・ ・

で、今何やってるのかというと ・ ・ ・ 、

朝起きたら青い六角形の宝石が浮いてます。

とりあえず起きますか……。

- - - カサッ

ん？なんだろう？これは手紙かな？

なになに……

神『5歳の誕生日おめでとう。君が転生した世界は魔法少女リリカルなのはの時代だよ。

ドラゴンクエストの魔法は君の先祖が持っていたのが先祖帰りで君に身についたって

ことになってるからね。それとその魔法の術式名はスクウェア式で目の前に浮いてる

宝石はデバイスっていう武器だから。話しかければ起動するはずだからがんばってね。

あ、あとたぶん原作を知らないと思うけど原作介入してもらうからね。今君がいる世

界は原作の平行世界だから自分の好きな様に、納得のいく人生を送ってね。』

魔法少女リリカルなのは・・・？友達から聞いたことあるような気がするけど覚えがないなあ

それよりもデバイスっていう武器が気になるね。

話しかければ起動するみたいだけど・・・

ファイア「おい。」

??>>Good morning master.<<

・・・あうゝ、英語分らないよ・・・

私がアタフタしてるとデバイスが、

??>>The language in the world  
which is now is under check.  
It sets to Japanese・・・Compl  
ete. おはようございますマスター。<<

ファイア「お、おはよう。」

レナ>>私の名前はヘレーナ、愛称はレナとして登録されています。  
そして私の正式名称は  
スクウェア式インテリジェントデバイスです。よろしく願いしますねマスター。<<

ファイア「よろしくね？レナ。」

レナ>>はい。待機状態はペンダントとして携帯してください。<<

ファイア「分かった。」

-  
-  
-  
-  
-  
-

おなががすいたのでリビングに行くとお父さんとお母さんがイチヤイチヤしてた

フィア「おはよう、お父さん、お母さん。」

ディ「おはようフィア。ご飯出来てるわよ。」

レイ「おはようフィア。・・・ん？その胸元のペンダントは倉においてあった奴じゃないか。どうしたんだい？」

フィア「朝起きたら目の前に浮いていたの。それで私がレナ・・・このペンダントはデバイスでね、

レナのマスターになったの。それでレナから聞いたんだけど、私の魔法はスクウェア式って言って、

先祖帰りで私の魔法の力になったみたいんだけど何か知ってる？」

レナ>>正式名称はヘレーナです。よろしく願いします。<<

ディ「よろしくね？それと多分その術式は私の家計の先祖かもね。

私の実家に文献が置いてあって幼い頃に見た記憶があるから

」

フィア「お母さん、その文献って私も見れる？スクウェア式についてもっと知りたいし。」

ディ「んーたぶん実家に連絡すれば見れるかも？連絡とって見るわね。」

フィア「連絡取れたら教えてね！・・・おなかすいたしご飯食べよう？。」

ディ「じゃあ、朝ご飯食べましょうか。」

三人「いただきます。」

.....

## 二話 デバイス登場（後書き）

結構がんばってるんじゃない？私w

ファイア「最初だけ・・・とかだったら・・・分かってるよね？」

はい！精進させていただきます！

ファイア「まったく・・・でもこんな駄文を読んでいただきありがとうございます。これからも温かく見守ってやってください。」

次はデバイスの起動と主人公の身体能力とかを予定しています。

ファイア「ではまた次回で！」

### 三話 初めての魔法（前書き）

やっと投稿できた！

フィア「なにやってたの？答えによつては・・・」（ニコッ）」

プロットデータが飛びまして打ち直しました！（ガクガクブルブル

フィア「まあいいか。それでは本編どうぞ！」

### 三話 初めての魔法

sideファイア

昼過ぎに自分の部屋でレナと話しているとふと思ったことを口にしてみた

ファイア「ねー、私ってドラクエの魔法使えるんだよね？」

レナ「>>はいそうですが、どうかしましたか？<<

ファイア「つかってみたい！！」

レナ「>>一応私を起動しなくても使えますが魔力効率がものすごく悪いので起動を先にしましょうか。<<

ファイア「はい。」

レナ「>>では私の後に続いて起動パスワードを唱えてください。

古より続く魔法使いの血に誓い、<<

フィア「えと・・・古より続く魔法使いの血に誓い、」

レナ>>自らの大切なものを守り抜く力をここに、<<

フィア「自らの大切なものを守り抜く力をここに！」

レナ・フィア>>「ヘレーナセットアップ！」<<

足元から青い光がでてきて私を囲んで・・・、服装が変わった！？

レナ>>バリアジャケットは私が設定しました。<<

へえこれがバリアジャケット・・・私の今の服装は、  
裾が膝上にある白いドレスっぽいものに足首まである青いコート、

それにたぶん風を模している柄に青い宝石がついているレイピアが右手にある。

腰辺りに鞘もある。

フィア「でも・・・なんでレイピア？」

レナ>>それはですね、呪文の各属性を剣に宿して攻撃できるようになっているんです。<<

フィア「（質問に答えてない・・・）ほえー・・・ということはやりようによつては3〜4個の属性を合成させて攻撃できるの？」

レナ>>できますが・・・リンカーコアの負荷がものすごいですよ？属性同士の相性とかもありますし。

あ、あと、基本的に私無しで呪文詠唱しなくても魔法使えませんが、私を介して無詠唱や私を介して詠唱するの比べると威力が落ちますね。まあでも魔力に

ものをいわせるとかは話が別ですが

。<<

ドラクエの呪文って負荷があるんだ・・・。というかリンカーコアってなんだろう？

フィア「へえー・・・あ、でも剣を杖として詠唱するの？」

レナ>>いや儀式魔法や詠唱する余裕がある場合は私を変形してモードを変えて魔力効率を上げるこ

とが出来ます。杖に変形する場合はモードロッドで変形できます。またレイピアにはモード

ブレードです。ちなみに起動時はいつもブレードモードです。

<<

ファイ「まあ練習して覚えていけばいいかな。・・・とりあえず魔法使いたいから使っていていい？」

と、空き缶を切り株の上に置きながら言うと、

レナ>>はい、分かりました。どの呪文を使いますか？<<

ファイ「とりあえず初歩的なメラで。」

レナ>>詠唱は自分で決めてください。<<

ファイ「わかったー……。炎よ！」

空き缶を狙ってメラを撃つてみると空き缶からそれで地面に当たっ

た。

ファイ「やったー！！魔法が使えた！！命中はしなかったけどうれしい！！」

レナ>>百発百中になるまで練習しましょうね？<<

ファイ「うん！！」

レナ>>日も落ちてきてますし今日はこれくらいにしましょう。<<

・・・ほんとだ。あたりがオレンジ色にそまってるや。

レナ>>明日からビシバシ基礎能力を高めていきますからそのつもりで。<<

ファイ「はい。」

・・・リンカー「コアのこと聞くの明日でいいか・・・。

side out



### 三話 初めての魔法（後書き）

というわけで遅れてすいませんでした！！（ジャンピング土下座

ファイ「なんでデータ飛んだの？」

保存せずにメモ帳切ったっばいです・・・orz

ファイ「バカでしょ・・・。こんなバカな作者の駄文でも今後よろしく願います！」

## 四話 キングクリ（ry

）sideファイア）

いきなりですがレナを起動してからさらに5年たちました。

- - キングクリムゾン！！

・・・なにいつてるんだろつかこの駄作者は・・・スルーがいいよね・・・

- - あ、まってwスルーしないでw

で、私はいまなにをやってるのかというと・・・、

レナ>>マスター、集中してください。制御が乱れています。<<

ファイア「あ、ごめん。」

メラを20個ほど展開してその長時間維持をしています。  
これが意外と大変で・・・

・・・ドゴンッ！

あ、3つほど制御から離れてあらぬ方向に飛んでいった地面に当たった・・・

レナ>>15個ならまだ制御できますが・・・、これ以上は無理ですかね・・・？<<

あ、ちなみに誘導弾はメラ系、無誘導弾はヒヤド系になってます。中級呪文までなら無詠唱ができますが上級と最上級は詠唱が必要で・・・、

レナがいないと魔力を思いっきり持つてかれます。

儀式魔法は負荷がものすごいから15歳までは呪文覚えるだけみたいです。

剣技は我流剣術に組み込んで練習中です。」

レナ>>なにいつてるんですか？マスター。<<

ファイア「え？声に出た？」

レナ>>はい。バッチリと。<<

・・・は、はずかしい・・・／／／／

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

練習を終えて家に帰ってくると・・・

???「がう!」

ちっちゃいトラが飛び掛ってきました。

フィア「ちよつと！落ち着きなさい、レオ。」

2年ほど前にレナが、

レナ>>今日は使い魔を召喚しよう。<<

と、突然言い放って使い魔を召喚したら、ベビーパンサーができました。

とりあえず、ものすごく懐かれたのでレオという名前をつけて可愛がっています♪

それにしてもこの子キラパンサーに成長するんだろうか・・・？  
成長するなら陸での機動力がすごいとおもっなあ・・・

レオ「がう！」

・・・ピカッ！！ポフンッ！！

え？レオがいきなり発光して人型に・・・

ファイア「え？え？ふええええええ！？」

レオ「ご主人の魔力ちよつともらって変身できた♪」

レオの外見は7歳くらいの男の子で髪は赤くてちっちゃいとさかみ  
たいになってる。

顔は無邪気そうな笑顔を浮かべている・・・かわいい／／／／

レオ「改めてヨロシクね？ご主人。動物モードだといえなかったの。

」

「ファイア」って、うん。よろしくね。

side out

#### 四話 キンゲクリ（ry（後書き）

時系列的にはA・s終わってるよ

フィア「キンクリで飛ばすとは・・・さすが駄作者」

ひどい！

フィア「というかレオが登場&擬人化って・・・」

つい魔が差して・・・テヘ

フィア「気持ち悪い！！」

ガン・・・――――

フィア「作者が落ち込んだけどまあいいか。ご意見ご感想お待ちしております」

## 五話 空港火災（前書き）

というわけでまたまたキングダムゾンです・w・

フィア「メラガイアー!!」

ぎゃああああああつ

フィア「まったく・・・それではどうぞ!!」

## 五話 空港火災

sideファイア

今私は空港にいます。

――ドゴオオオオオンッ！！

レナ>>プロテクション<<

おつとあぶないあぶない。

なんでこんなことになってるのかというと・・・

私がミッドに用事があって自分の出身世界からミッドに来る

←

何かが爆発した音がする

←

火災発生

←

私は近くにいた一般人にオクルーラをつかって助ける

←

ほかに人がいないか探す      ↑ いまここ

あらかた探し回って助けたからもう居ないとおもっただけど・・・  
なんかまだいるような気がするんだよね

『ぐすつ…熱いよお…』

子供の泣き声！？・・・こっちか！！

イオで子供に当たらないように周りを飛ばすと、青い髪の子がいた

ファイア「大丈夫？」

『ぐすつ…お姉ちゃん…誰？』

私は女の子と視線をそろえるようにしゃがむと

ファイ「私は君を助けに来たんだよ、・・・この熱い中良く頑張ったね。」

そう言っ頭を撫でてやると少しだけホッとした表情を浮かべた

「ここは崩れそうだな・・・さっさと逃げようかな

ファイ「転移するからしっかり掴まってね。」

女の子がコクツと頷いたのを確認して女の子を抱き上げ詠唱する

ファイ「我を光の下に・・・リメミト！」

空港の外の人のいないところに転移する

ファイ「ねえ、君、名前は？」

女の子「スバル・・・」

ファイ「スバルちゃんだね・・・私は・・・って眠っちゃったか」

安心した様に腕の中で眠るスバルちゃんの頭を撫でながら空港の外を歩いてると

???「スバル!!」

声がしたので振り返ってみると壮年の青年がいた。

???「俺はゲンヤ・ナカジマ、その子の父親だ。」

ファイ「そうですか。空港から私が見つけて転移で出てきました。」

ゲンヤさんにスバルちゃんをわたしながらいうと

ゲンヤ「ありがとう。・・・えっと、」

ファイ「あ、私はファイア・クローディアです」

ゲンヤ「ファイアさんありがとう。」

ファイ「いえいえ・・・火災がやばいかな・・・ちよつととめてきます」

ゲンヤ「え！？おい！！」

ゲンヤさんが静止を呼びかけたけど気にしない。

ファイ「ゲンヤさん、大規模広域魔法使うので退避させてください。これが範囲です。」

レナにいつてマヒヤデドスの範囲を見せる。

ゲンヤ「・・・わかった。＞全員に通達！！大規模広域魔法が飛んでくるぞこの範囲外に退避しろ！！<」

ゲンヤさんが通信してるうちにロッドモードに変えて魔法陣を張り巡らせる。

ファイ「フルドライブ！！・・・すべてを凍らせ！氷の刃よ！マヒヤデドス！！」

空から無数の氷の刃が降り注ぎ炎を押しつぶして消火する！！

ファイ「こんなものかな・・・」

ゲンヤ「すげえな・・・協力感謝する。」

ファイ「では私はこれで・・・ルーラ」

転移する時に何か言ってたけど気にしない。

side out

六話 ミッドでの幼児・・・じゃなかった用事（前書き）

ファイ「消えろ作者!!」

ちょwwまだそれ設定段階の呪文wwwwww

ファイ「問答無用!!!」

ぎゃあああああああああ・・・

## 六話 ミッドでの幼児・・・じゃなかった用事

｝sideファイア｝

さて・・・、巻き込まれたから救助したけど、管理局に見つかる  
説明とかで  
面倒なことになりそうなんだよね・・・。だから転移で逃げたんだ  
けどね。

ファイア「ん？」

なんか青いボディラインにぴっちりしたスーツ着てる女の子が  
アタッシュケース運んでる・・・。

・・・まあスルーでいいかな。

ファイア「レナ、あたりに管理局員の魔力反応ある？」

レナ「>少しお待ちを・・・、サーチャーが周りを飛んでますね。  
私たちを監視してるっぽいですがどうします？<<

どうしようかな・・・。あ、そうだ。これ試してみるかな。

ファイ「レナ、威力を極限まで減らしたイオでフラッシュ起こしてその間にル

ーラで逃げれる？」

レナ>>「ちょっとまってください……。実現可能です。」<<

さてと、逃げ出す方法も分かったしさっさと逃げようかな。

ファイ「・・・光よ！イオ！（ボソッ）」

・・・カッ！！

閃光が周りを照らしているうちにルーラを詠唱しないと・・・

ファイ「我の思つ場所へ！ルーラ！」

私がおもっていた場所のクラナガンの中央にある人気のない公園に転移する。

ファイ「ふー……。まだ管理局とは関わりたくないね……。裏で黒いこと

やってるし私のことばねるとモルモットにされそうだし……」

レナ>>「そういえば今回ミッドに来たのは、陸士訓練学校に通うためでしたっけ<<

ファイ「そだね。父さんのコネでミッドで部屋を借りれたし……がんばらな

いとね。」

レナ>>「（陸士訓練学校いかなくても十分強いのですがね）<<

ファイ「どうしたのレナ、急に黙ったりして。」

レナ>>「いえ……。少し気になることがあります。陸士訓練学校でスクウェア式を

使うのですか？<<

ファイ「そのつもりだけど……。どうかしたの？」

レナ>>いえマスターの術式が珍しいというか特殊なので公にしていいのかと……。<<

フィア「あ。」

レナ>>忘れてましたね……マスター。<<

フィア「いや忘れてたわけじゃ……。」

レナ>>ではなんでもってるんですか<<

グハッ！……あうゝ正直に言おう……

フィア「すいません。わすれてました。」

レナ>>まあいいです。こんなこともあるつかとミッド式が私で使えるようにお父様に

ソフト入れてもらいましたから<<

フィア「父さんいつの間に……、でもありがとね。また今度あつ

た時にお礼言わないと。」

レナ>>仕様マニュアルもありますし訓練学校入学まで時間がありますから基礎をみつ

ちりとやりますよ？マスター<<

フィア「あはは・・・お手柔らかにお願いします・・・」

レナ>>善処します・・・！？ 管理局員の魔力反応を感知！！空から飛んできます！！<<

フィア「え！？・・・レナ魔力隠蔽Bランクまでかけて」

レナ>>了解しましたマスター。視認距離にはいりました。<<

フィア「あれは・・・だれだろ？」

みえたのは、金髪ツインテールに黒いバリアジャケットを身に着けた女の子だった

フィア「フェイト・T・ハラオウンだと・・・レナ、ステルス最高

レベルで展開」

レナ>>了解しました<<

フェイトさんがさっきまでいた地点の上空に到着すると

フェイト「だれもないね・・・バルデッシュ反応は？」

バル>>ありません、サー<<

と話していた・・・。感知されていないみたいだし物音立てずに逃げますか。

｝side out｝

## 六話 ミッドでの幼児・・・じゃなかった用事（後書き）

フィア「作者はなぜか黒焦げてるので今回は私と」

レオ「ボクでやるよ〜!」

フィア「相変わらずのgggg感・・・あとでもう一発食らわせるか・・・」

レオ「作者さん大丈夫かな〜」

フィア「まあ大丈夫でしょ。じゃあ締めるよレオ」

レオ「うん! まったね〜!!」

## 七話 昇格試験（前書き）

というわけで陸士学校はすつとばしました。それではどうぞ！

## 七話 昇格試験

Sideファイア

新暦75年ミッドチルダ。

試験を受けるためファイアは廃ビルの上にいた。

今は試験を受けている二人組が終わるのを待っているところで、どうやらその二人は残り数秒の所でゴールしたようだった。

ファイア「いよいよ、だね。」

レナ「>>ええ、ミスしないようにして下さいね、次の試験は半年後ですから。<<

ファイア「はいはい」

レナ「>>はいは一回！・・・始まるようですね<<

レナがそういうとファイアの前に大きなモニターが出てくる。モニターには一人の女の子が映っていた。

「こんにちは。本日の試験官を勤めさせていただくリインフォース  
ツヴァイ空曹長です。よろしくですよ。」

「よろしくお願いします。」

「ファイア・クローディア三等陸士。保有している魔導士ランクは陸  
戦Cランク、本日受験するのは  
陸戦魔導士Bランクへの昇格試験で間違いないですよ。」

「間違いないです。」

「ファイア三等陸士はそこからスタートして各種に設置されたポイン  
トターゲットを破壊、  
もちろん破壊してはダメなダメージターゲットもありますからね、妨  
害攻撃に気をつけて全てのターゲットを破壊、  
制限時間内にゴールを目指して下さいです。何か質問は？」

リインフォースツヴァイ空曹長が淡々と試験の説明をしていく。

「ありません。」

「それではゴールを目指して頑張ってくださいね」

そう言い終わるとモニターの画面が変わりスタートまでのカウントがされていって・・・スタートの合図になった。

フィアはすぐに走りビルから飛び降りると同時にレナをセットアッブした。

フィア「ロッドモード!!」

レナ>>了解しました<<

次の瞬間フィアの手には身の丈ほどの大きな杖が現れ、服装が青をベースにしたバリアジャケットになった。  
そして、空中で詠唱する。

フィア「かの者に風の加護を!ピオラ!!炎よ!メラ!!」

ゴオオオオオオオ!

フィアが加速魔法と火の玉を20個ほどだす。  
フィアの速度は段違いに上がり火の玉の一発一発が無駄なくターゲ

ットに当たる。しかし、  
ダミーターゲットには当たってはいなかった。

フィアは一度もとまらずにさらに加速魔法を使っていく。

派手な行動をしたので、ターゲットがフィアの存在に気づき攻撃してくきたがフィアが速過ぎて当たらない。

フィアが走りながらレナをロッドモードからブレードモードに変形させ、魔力刃を発生させる。

ビルにいるターゲットに向かって走る。フィアが速過ぎて捕らえられないためターゲット

からするとかかり当てにくい敵だろう。

フィアは、自分に当たりそうな攻撃だけを弾きながら、ビルの中に入る。

「真空斬り！」

そう呟くと、レナの魔力刃に風が纏い付く。

「はあ！！」

フィアがレナを振るうと次の瞬間ターゲットは、全て破壊された。

フィア「こんなものかな、レナ索敵よろしく」

レナ>>了解しました<<

といいながらも、フィアは風でターゲットをなぎ払う。・・・ダミ  
ーに当てずに。

「さて、ここもミス無しにクリアでいいかな」

レナ>>次はこの上です<<

フィア「確か集中砲火がくるんだっけ」

この上の場所はなかなかの難問で、今までの受験者は必ず迂回する  
のが当然だったという。

フィア「よし、突っ込みますか、レナ、トリック」

>>機械をだませればいいんですね。・・・準備できました<<

ファイア「彼らに惑いを・・・トリック！」

呪文を詠唱しながら飛び出す。そしてターゲットが見える位置まで上がると、ターゲットはすぐにファイアに気づき一斉射撃をしてくるが、

ファイアには当たらず、幻影に当たる。

レナが索敵しているので相手の居場所が分かる。

ファイア「氷の刃よ！ヒヤダルコ！！」

ダミーターゲット以外のターゲットは全て氷の刃に撃ち抜かれ撃破された。

ファイアはターゲットがいないことを確認すると走り出した。

この試験を見ている人物がリインフォース以外にも五人いた。

まずヘリの中から映像を見ている、フェイトとはやて。ファイアの前に試験を受けていた二人。そして、なのはだった。

彼女達は、ちよつと・・・いやかなり驚いていた。

ファイアの前に試験を受けていた二人は陸士学校で見た記憶があるが地味だったためこの映像を見て驚いていた。

ほかの三人は面識がなかったため撃破速度をみてかなり驚いていた。

五人は、試験の映像から目が離せなくなっていた。

少し走ると、太陽の光がまぶしい場所へ出た。

>>マスター、エネルギー反応が<<

レナがそう言った瞬間ビルの中から、エネルギー弾が出てきた。なかなか大きく、当たったらかなりのダメージがくるだろう。

それをファイアが跳んで避ける。

レナ>>索敵・・・かなり遠くに大型スフィアがあります。<<

ファイア「面倒だねえ・・・メラゾーマいくよ！」

レナ>>面倒つて・・・まあいいです、魔力循環補佐機能作動！<<

ファイアの足元にスクウェア式の魔法陣が回転しながら大きくなっていく。

ファイア「爆炎よ！・・・喰らいなさいメラゾーマ！！」

半径1m以上もある巨大な火の玉が最近導入されたという大型のスフィアに向かって飛んでいく。

ドゴオオオオオオオオオオオオオオオオ！！！！

スフィアはバリアを張ったようだが圧倒的な火力によりバリアが一瞬で消滅しスフィアが破壊された。

ファイア「レナ残り時間は？」

結構時間を使ったかなとおもっているファイアはレナに慌てて聞いた。

レナ>>時間の余裕がありません。普通に走っても大丈夫です<<

それを聞いたファイアは安心してコースに戻った。後は、ただ走るだけだった。

side out

## 七話 昇格試験（後書き）

ふーがんばった。

フィア「結構文字数いったね」

まあね、あ、フィア、君に血族が増えることが決定したよ

フィア「・・・詳しくオハナシしようか」

ちよそれ決戦奥義・・・ギヤアアアアアアアア！

フィア「来週もよろしくお願いします」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5807x/>

---

・・・リリなのの世界に転生？リリなのってなに？

2011年11月17日18時26分発行